

日本農業技術検定とは

日本農業技術検定は、我が国の農業現場への新規就農のほか、農業法人や関連企業等への就業を目指す学生や社会人などを対象に、農業知識や技術の修得水準を客観的に把握し、教育研修の効果を高めることを目的として2007年度から実施している検定試験です。

農学系教育機関などで学んだ農業に関する実践的知識の理解状況を客観的に評価する農業専門の全国統一の試験制度です。現在、農林水産省・文部科学省の後援をいただいています。

日本農業技術検定は、これからの農業を担う人材の育成・確保に欠かせない検定として関係機関から注目され、入試で優遇する農業大学校や農学系大学が出てきただけでなく、優先採用する農業法人もあるなど受験メニューも拡大しています。検定受験者は年々増加し、平成30年度には約27,000人がチャレンジしました。

日本農業技術検定の概要

日本農業技術検定協会

等級	1級	2級	3級
想定レベル	農業の高度な知識・技術を習得している実践レベル	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	農作業の意味が理解できる入門レベル
試験方法	学科試験+実技試験	学科試験+実技試験	学科試験のみ
学科受験資格	特になし	特になし	特になし
学科試験出題範囲	共通:農業一般 + 選択:作物、野菜、花き、果樹、畜産、食品から1科目選択	共通:農業一般 + 選択:作物、野菜、花き、果樹、畜産、食品から1科目選択	共通:農業基礎 + 選択:栽培系、畜産系、食品系、環境系から1科目選択
学科試験問題数	学科60問 (共通20問、選択40問)	学科50問 (共通10問、選択40問)	50問 (共通30問、選択20問)
学科試験回答方式	マークシート方式 (5者択一)	マークシート方式 (5者択一)	マークシート方式 (4者択一)
学科試験試験時間	90分	60分	40分
学科試験合格基準	120点満点中 70%以上	100点満点中 70%以上	100点満点中 60%以上
実技試験受験資格	受験資格・免除制度あり ^{*1}	受験資格・免除制度あり ^{*2}	実技試験なし(不要)

※1：1級の学科試験合格者。2年間以上の就農経験を有する者又は、検定協会が定める事項に適合する者（JA 営農指導員、普及指導員、大学等付属農場の技術職員、農学系大学生（農業高校・農業大学校を含む）で農場実習等4単位以上を取得している場合）は実技試験免除制度あり。

※2：2級の学科試験合格者で1年以上の就農経験を有する者。農業高校・農業大学校など2級実技水準に相当する内容を授業などで受講した者、JA 営農指導員、普及指導員、大学等付属農場の技術職員、学校等が主催する任意の講習会を受講した者は2級実技の免除規定が適用される。